

説明・記載例 (訴状・賃料増減額)

「請求の趣旨」とは、訴えによって求める判決内容の、簡潔かつ確定的な表示です。
あなたが被告に求める請求の内容を簡潔に記載してください。

何月分から家賃の値上げ(値下げ)をしてほしいのか、家賃の値上げ(値下げ)の申し入れをしたときに被告(相手方)に告げた値上げ(値下げ)の月を書いてください。

家賃をいくらにしてほしいのか、既に値上げ(値下げ)の申し入れをしているときは、その金額を書いてください。
その金額とは、値上げ(値下げ)幅ではなく、値上げ(値下げ)後の家賃のことです。

あなたが被告(相手方)に申し入れた値上げ(値下げ)後の家賃(又は既に支払っている家賃との差額)の申し入れをした日から訴えを提起するまでの合計額の支払を求めるときは、この□をレ点でチェックし、その金額を書いてください。

「訴訟費用」とは、申立手数料や証人に支払う旅費・日当などのことです。(弁護士等の費用は含まれません。)

請求の趣旨

- 1 別紙物件目録記載の【土地/建物】の賃料は、令和●年●月●日以降、1か月金●●●●●円であることを確認する。
- 2 【被告は、原告に対して、金●●●●●円を支払え。】
- 3 訴訟費用は、被告の負担とする。

との判決 及び仮執行の宣言 を求める。

◎仮執行の宣言とは、判決が確定する前に判決の内容に基づいて強制執行の着手することを求めるものです。
◎「2」で□をレ点でチェックした場合で、仮執行の宣言を希望するときは、この□をレ点でチェックしてください。

説明・記載例 (訴状・賃料増減額)

被告(相手方)と初めて結んだ契約の内容を書いてください。
その後、家賃が改定されたときは、現在の家賃の額とその額に改定された日を「(3)賃料」の()内を書いてください。

なぜ今の家賃を改定してほしいのか、該当する口をレ点でチェックしてください(レ点でチェックするのは、いくつでも結構です。)。その他の理由があれば、空欄の口をレ点でチェックした上、空欄にその理由を書いてください。

請求の原因

1 賃貸借契約の内容

【原告/被告】(賃貸人)は、【被告/原告】(賃借人)に対し、別紙物件目録記載の【建物(以下「本件建物」という。)/土地(以下「本件土地」という。)]を以下のとおり賃貸し、これを引き渡した。

(1) 契約日 【平成/令和】 ● 年 ● 月 ● 日

(2) 賃貸期間 ● 年
 【平成/令和】 年 月 日から
【平成/令和】 年 月 日まで
定めなし

(3) 賃料 1か月金 ●●●●●●円
(【平成/令和】 ● 年 ● 月 ● 日から1か月金 ●●●●●●円)

(4) 書面による連帯保証
あり 連帯保証人【(被告)】
なし

(5) 特約
なし

2 賃料改定の理由

- 固定資産税その他の負担が【増えた。/減った。】 土地や建物の価格が【高くなった。/低くなった。】
 付近の建物と比較して賃料が【高い。/低い。】
 その他確認を求める賃料が相当であることを基礎づける具体的な事情

※ 上記で選択した固定資産税その他の負担、土地・建物の価格及び付近の建物の賃料の額の増減の具体的な金額やその推移については、各選択肢の下に適宜スペースを設けてご記載下さい。

3 賃料改定を申し入れた日 令和 ● 年 ● 月 ● 日

「請求の原因」とは、請求の趣旨と相まって請求を特定する事項などです。請求を特定するのに必要な事実や請求を理由付ける事実など、請求の内容の法律的な根拠及び理由、あなたの主張を具体的に記載してください。

家賃の値上げ(値下げ)を被告(相手方)に申し入れた日を書いてください。
なお、直接口頭で申入れをしたときはその日を、書面で申入れをしたときはその書面が相手方に到達した日を書いてください。

説明・記載例
(訴状・賃料増減額)

被告(相手方)の言い分や、この紛争について他に参考になることを書いてください。

(その他の参考事項は以下のとおり)

被告は、令和●年●月分から毎月●●●●●円を●●法務局に供託している。

